

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500057		
法人名	社会医療法人 小寺会		
事業所名	グループホーム 鶴見の太陽		
所在地	佐伯市鶴見大字沖松浦51番地		
自己評価作成日	平成30年2月13日	評価結果市町村受理日	平成30年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490500057&amp;SCD=320&amp;PCD=44">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490500057&amp;SCD=320&amp;PCD=44</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府 壱番館1F
訪問調査日	平成30年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐伯市は大分や別府といった都市に比べ、小さい集落が離れて点在しています。利用者は旧南海部郡の出身者が多い。その為利用者の生活歴、地域の方々や家族とのつながりや関わりを大切にする活動を行っている。地域の催しものや、外出・外食支援を通じて地域の方の認知症の理解や協力、できる限り家族の方にも一緒に参加して頂き、利用者に安心して生活できるように楽しい生活を連携し提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見渡す限り、山の新緑と海の潮風が頬に優しく、自然環境が四季を通じ、肌に感じ心地よさのなかでゆったりとした時間が過ごせ、安らぎの印象が強い施設となっています。利用者が明るく、職員が生き生きと働いている様子を受け、管理者・施設代表者との関係が良好であり、家族等も行きやすい施設となっています。法人が病院を運営しており、医療・看護との連携が取れ、利用者の終末・看取りなどにも積極的に取り組みがなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングでの理念唱和を実践し地域での生活の継続と関係性の継続を支えることを支援や関わりの中で忘れずに実践につなげています。	色々な会議の場に於いて理念を共有し、支援に繋いでおり、3月の年度末にかけ見直しを行う計画がされています。職員の採用時に、理念の持つ意味等を理解出来るよう、説明に取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館祭りや地区の文化祭、小中学校の体育祭等、地域の行事に毎回招待いただき楽しみにしています。当施設の夏祭りには、大勢の地域の方々に来ていただき交流しています。	自治会に加入し、地域のお祭り等に健康状態を確認しながら参加され、近隣の人やボランティアも施設にお出でになり、地域の人との交流に取り組まれ、施設内が明るく感じられました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー研修(初任者研修)や基礎課程研修の実習受け入れや、学生の社会学習、及び職場体験の実習施設として、人材の育成にも貢献しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者様の毎日の生活の様子や事業所の活動内容を入所者様の高齢化とそれに伴う治療のニーズの高まり等を重ねながら、毎日報告しています。かつ、業務内容を改善しつつサービスの質を上げるよう工夫、努力をしています。	運営推進会議は、7~8名で構成され、年6回ほど開催され、施設内の出来事・行事・自己・外部評価さらに改善計画を報告し、意見を頂くなど双方向の会議に取り組まれ、会議で出た要望や意見は職員と共有し、対応がなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新時など、市の介護保険担当者に利用者の状況や課題について報告したり不明な点などもお尋ねしながらご指導を仰ぐようにしています。	月に2~3回出向き、利用者の現状・ニーズ、さらに困難事例等についても意見を交わされ、利用者が安心・安全に生活出来るよう支援に取り組まれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束防止委員会による身体拘束防止の研修は必須の研修として全職員で取り組んでいます。そして拘束をしないケアについて、日々カンファレンスで検討し実践しています。	毎月のごとく身体拘束にかかわる研修を行っており、家族から安全のため拘束や鍵かけの要望もありますが、身体拘束の弊害等を説明されその防止に取り組まれ、さりげない声かけで利用者の行動制限をなくす取り組みがなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各自が言動を振り返りながら常々ミーティングやカンファレンスで検討し、虐待に値していないか注意を払っています。また施設内外の研修に参加し虐待防止の糧にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設や法人で学ぶ機会を設け、勉強会や研修に参加するようにしています。都合で参加できなかった職員には伝達講習等で履修しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時、利用者の状態の変化の際に伴うケアの方向性について等、逐一家族の希望や疑問を尋ねながら理解や納得、協力を図っています。また家族においても説明の機会を設けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内にアンケートボックスを設置し苦情や意見要望を承っています。また日頃の面会やケアプランの更新時等にケアや運営に対する不安・不満等を尋ね苦情や意見・要望を承り、苦情の解決や運営に反映するよう努めています。	家族の面会や施設にお出でになった時、意見や要望等を承わり、その対応への取り組みがなされています。施設だけでなく、市の窓口・地域包括支援センター等外部の方への相談窓口の案内も契約時等に伝えられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りやスタッフカンファレンス、ケア担当者会議等で意見やアイデアの提案を聞き、又、発信したりして運営や方針に反映させています。連絡ノートの活用で全員で周知徹底しています。	感じたことが言い易いよう、職員体制作りを協議し、ミーティング、勉強会、相談等の中で、日常の支援で感じた事、気づきアイデアを運営の中に取り組みされる配慮を感じます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々が常に向上心を持って自己研さんに努めていけるよう、上半期、下半期に渡る個人目標を設定、実績の自己・他己評価を行う就業の整備がされています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の知識や技術の向上はもとよりチームとしての力量アップ、メンタル面の強化を図り、今年も5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)を継続して取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学と5Sの勉強会を兼ねてグループホーム同士の交流会を図りました。法人内の他施設との交流を図り、情報交換をしています。運営会議でサービスの向上を図る検討会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時では環境の変化で不穏行動等予測しにくい状況の中、常に対話、傾聴に注意し本人の思いを受けとめる姿勢で臨む事を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここに来られるまでの御家族の苦労や経緯について傾聴し、御家族の心に寄り添い要望や不安を伺いながら家族状況を把握し、信頼して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望に寄り添える必要なサービスが事業所として対応できるかを見極めながら併設の事業所や関連施設の情報等、説明・紹介させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事で力を発揮していただき、「周りの人の役に立っている」事、手伝ってもらって「ありがとう、助かりましたの感謝の気持ちを伝える」そのようなシーンをたくさん持つように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とその家族との関係を大切にしていける事がグループホームケアの本質だと思います。家族から本人の希望や情報、要望に傾聴しながら家族と共に本人を支えていける関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆、年末年始の帰省や自宅周辺への外出支援、ドライブ等行っています。帰省時には友人、知人との対面もできるよう家族から話を聞いたりしながら継続的な交流ができるよう働きかけています。	利用者の今までの生活状況や人間関係を把握し、家族、知人、友人などへの電話・手紙等本人の意志に基づいて連絡を取るなど適切・継続的な支援に取り組み、日常生活の延長・地域密着型の考えがなされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態やその時の感情、気分に合わせて利用者同士の生活空間でのちょっとしたことでの言い争いや、疎外感を与えることがないように見守りや対応を常に行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気等で入院・退所となつ方へは必ずお見舞いに行き、経過を見守りながら、支援を行っています。併設の事業所へ部屋移動となった方にはなじみの利用者と一緒に訪室し、交流を続けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報を参考にし、毎日の表情や行動、会話の中から思いや希望、意向を推察しスタッフ間での情報を集め、希望をくみ取り、安心して生活ができるようにしています。	利用者本人が言葉にしにくい事を日々の行動から把握し、本人の意向に沿った支援に取り組み、本人・家族等の意見を聞きながら、何をしたいのか、誰に会いたいのかなど察して、本人が納得の行くように対応がなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方や近所のお友達の方、会いに来てくださった方からそれまでの暮らしぶりや、若い頃の話など聞くことも良く有るのなるべくそれに近い環境でのケアへつなげています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活リズムや生活習慣を理解し、日々の生活を送って頂いています。認知症の進行による心身の状態の変化は日々関わりの中で観察し、現状の把握をみんなで共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の思い・意見を参考にし、ケア計画に反映できるよう日々の生活の中で気づいた事やひらめきをスタッフ間で共有し実現できるように取り組んでいます。	介護計画は本人・家族・そして支援者の考えや意見を聞き、本人本位の計画策定に取り組まれています。認定更新時や状態の変化に伴い、計画変更など対応がなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の気づいた事や、変化など個別に記録しケアマネ中心となって介護計画の見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老健との併設施設ということもあり、ST・OT・PTの方との連携体制がすぐにとれる環境にあるので必要になった場合は専門的なアドバイスを貰ってケアしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の行事には近隣や地元の方々に応援をして頂き、地区の運動会や文化祭には招待して頂き、地域の方との楽しい時間を大切にしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望する医療機関への選択をして頂いています。受診や通院へは職員が同行し、医師との情報交換や情報の共有をご家族と一緒に取り組んでいます。	住民健診を受けている方もいますが、半年に1回血液検査等を行い、健康管理に努めています。通院に同行できない家族には、その日に電話で結果を伝えています。他科へ受診が必要な時は医師に相談し看護師が同行し受診されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、日々のケアの際に気づいた変化は申し送りの際に報告し、併設施設の医師や看護師にも相談や協力、援助してもらえ体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の診療情報提供書や電話での情報交換、対面での話し合いで医療機関やケア関係者・家族との情報の共有に努め退院後のケア計画に反映させるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りについて事業所が対応できるよう内容を説明し、意思確認書頂いています。安心して終末期をすごして頂けるように本人・家族の意向を確認しながらケア方針を共有して支援しています。	入所時に、重度化や看取りについて家族と意向を話し合い意思確認書を作成されており、安心して終末期を迎えられるよう支援されています。また、それに伴い家族の不安など、心のケアにも心がけています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急・急変時に対応できるよう講習会やシミュレーションを必須の研修として年間計画に定めています。緊急・急変時に冷静で適切な判断と対応ができるようにマニュアルの周知に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に地域の方々や消防署の協力を頂きながら災害を想定した避難訓練を定期的に行っています。終了時には消防署職員からの助言や講評を聞きながら安全に避難できる環境を整えています。	地域の方や、家族にも避難訓練に参加して頂きながら年3回の避難訓練をされています。夜間を想定した訓練もされています。緊急時の連絡網や役割分担等防火計画書も作成されています。非常食の備蓄もされ、消費期限の点検もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中での言葉や立ち振る舞いを職員同士で振り返り、指摘し合ったり、反省したりしながら意識付けをしています。守秘義務や尊厳の重視、接遇・マナー委員会を中心に行っています。	接遇や守秘義務などの勉強会をされていますが、参加出来なかった場合は回覧される文書で周知されています。利用者の呼び方については、本人や家族が希望される呼び方で支援されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常業務の中で希望や意思の決定ができるよう、関心や思考を見極め、声かけや指導時にその方の表情や態度を観察しながら自己決定できる環境を作るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴等本人の希望でその方の生活様式や希望に合わせています。それぞれのライフスタイルに合わせて職員が支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の髪の毛の乱れや衣服の更衣等を観察し、ボタンの掛け違いや衣服の乱れに注意しています。散髪や染髪の時期も本人の意向を聞きながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を事前に聞き、メニューに取り入れてます。調理の際には野菜の皮むきや、材料の下ごしらえ、片付け等協力して頂きながら一緒に行っています。	利用者の好みの物をメニューに取り入れ、本人の箸や食器を使用し、食事を楽しまれています。おやつづくりも頻回に行われ、職員と一緒に楽しまれています。外食をされる事もあり、お店の方が食事形態にも対応して頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設に管理栄養士が常勤しており、栄養バランスは確保できています。調理の際はメニューが重ならないよう考慮しています。食事量や水分量は毎回チェックし、記録・管理しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア委員会を中心に歯科衛生士の指導の下毎食後一人一人の能力や状態に応じたケアを行っています。必要時には歯科受診を行います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら排泄の回数・量・形状、間隔等の管理を行っています。排泄委員が中心となり、できる限りトイレで排泄が続けられるように利用者様を観察し支援しています。	毎日の関わりの中で、利用者の排泄のサインを見逃さず、トイレでの排泄を支援されています。夜間は睡眠を妨げないよう、オムツ・パットを使い分けています。排便も医療行為に頼らず自然排便できるよう、水分や食事の摂取に注意されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排泄日をチェックし、申し送りで報告しています。体調や腸内環境の個人差があるので個人の排泄パターンを把握し、なるべく薬や医療行為に傾かないように日頃から水分摂取に留意しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	たまかな入浴日はありますが、入りたい日やその日の気分や希望を聞き、利用者の生活習慣に合わせて臨機応変に対応しています。入浴を拒む利用者には時間帯を声かけ等、工夫し気持ち良く入って頂けるように努めています。	殆ど毎日入浴の支援がなされ、利用者は気持ち良く過ごされています。体調不良の時は清拭をされています。今まで入浴支援でヒヤリハットも見受けられなく、安全に支援がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息はお部屋で聴音など好きなことをさせて下さる方、リビングでの利用者や職員との会話を楽しまれる方、様々です。睡眠もその方の生活スタイルに合わせて照明や就寝時間も様々です。個々に合わせて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事故を防ぐために2人で確認しながら毎服薬支援を行っています。飲み忘れの無いようならチェック表を用いて服薬チェックを行います。用法・容量や効能等は処方箋ファイルで閲覧できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、おしぼりを巻く、食器を洗う等の日常の家事をお願いしたり、畑の野菜と一緒に育てたり、収穫したり、生活歴を活かして楽しみや張り合いのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所近くのスーパーへの買い物や、お花見やデパートへの外出、家族の方も参加して頂き利用者様の体調に気をつけながら、全員参加できるように職員をはじめ地域の方にも協力して頂いて支援しています。	花見などの季節の外出支援には、家族も参加して頂き楽しまれています。気分転換を兼ね外食を家族も楽しみにされるなど、家族や地域の方の協力を頂きながら、安全に外出がなされています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様ご自身でお金を所持している方もおられます。スーパーなど買い物へ行く際は利用者様に所持して頂きお買い物を楽しんで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やお友達の方にも協力して頂き、利用者が希望すればやりとりの内容等プライバシーに配慮しながら個別に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備や季節毎の装飾をし、利用者に季節感を感じられる雰囲気作りをしています。置コーナーではお昼寝をされたり、足を伸ばしてテレビを見る方もおられ、ゆったりとくつろいでいただいています。	共用のスペースには畳の間が設けられており、お雛様が飾られ、季節感が感じられました。壁面に利用者と職員と一緒に制作された作品が飾られ、環境整備され、寛げる空間が確保されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の様子を見て随時テーブルの位置を変えて対応している。 ソファを置きゆっくりくつろいで話ができるスペースを何か所か設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を尊重し一人一人のライフスタイルに合った家具を自由に持ち込んで頂いています。利用者が様入所前の生活の継続ができるようにその方らしく生活して頂ける環境を整えています。	居室には加湿器が設置され、定期的に洗浄し、清潔に保たれています。その方が安全に居心地良く過ごせるよう配慮されています。	今後も、引き続き居室へ入る際には、ノックをし、声かけを行いながら、支援される事を希望します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活ができるようにスペースや表示をわかりやすく工夫しています。利用者様の安全にふさわしくない家具は配置の見直しをして安全に配慮している。		